

第Ⅳ期 SSH 構想図



カリキュラム・マネジメントの深化による
持続可能な「分野融合型科学技術人材育成法」の実践

ICH－Method の広域連携による普及

■ 「分野融合型人材育成」に向けた教育課程の深化と普及

(サステイナブルな分野融合型授業をオンラインやオンデマンド等を活用して普及)

- ア 分野融合型授業のさらなる普及と再開発
- イ 「社会とつながる探究」をテーマとした「総合的な探究の時間」の発展と普及
- ウ 普通科 SSH コースの深化

■ 課題研究の先進的指導法とエビデンスのある評価法の確立と普及

(AI システムによる評価を指標としたより客観的な評価方法の確立)

- ア 生徒自身が身に付いた能力を自身で確認できるルーブリックを活用した評価の開発
- イ 自分ごととしての課題研究内容に対応した指導体制の確立と普及

取組ごとに開発した評価方法を AI システムによる評価法と比較

■ フィールドワークの開発及び指導法の継承

(フィールドワークの充実ときめ細かい評価の開発)

- ア Field Study (理数科 1 年次)
- イ SS-Science Camp I (1 年次希望者)
- ウ SS-Science Camp II (2 年次希望者)
- エ SS-Field Study (理数科 2 年次)
- オ SS-Science Camp III の開発 (2 年次 SSH コース希望者)

□ 先進的な高大接続カリキュラムの開発

(高校の授業と大学の講義のギャップを埋める接続講座への発展)

□ 大学及び外部諸機関連携の再構築・発展

(目的を明確にした連携講座の精選)

- ア 教科・科目との関連性を重視した連携講座の実施と普及
- イ 高大接続を視点とした発展的な連携講座の開発
- ウ キャリア教育の視点を入れた連携講座の実施
- エ オンライン等を活用した海外大学・企業との連携

□ 国際的に活躍できる人材に必要な自己表現能力の育成

(言語活動を重視した科学技術人材育成)

- ア 千葉大学高大連携支援室との連携による外国人留学生の導入
- イ 英語を母語とするサイエンスアシスタントの導入
- ウ 外国人研究者招へい講座の改善・実施
- エ 英語による理数系授業及び理科実験講座の実施
- オ 卒業生による講演会の実施

さらなる向上心をもって
「全生徒」による SSH・「全職員」による SSH

- I STEAM 教育を発展させ、「科学技術に関するあらゆる分野の知見を総合的に活用して社会の諸課題に的確に対応できる」人材に必要な、人文・社会科学を包括した分野融合型のカリキュラムを開発する。また、探究活動に必要な「課題発見能力」「課題解決能力」「自己表現能力」を効果的に育成する。
- II それぞれの取組で重点的に育成すべき能力を明確に意識し、サステイナブルな指導ができる体制を構築する。効果測定において、これまでの評価方法を客観的なエビデンスに基づき分析する。

